

第 22 回鈹山跡措置技術委員会議事録

1. 日時：令和 3 年 3 月 18 日(木) 13:00～17:10
2. 場所：日本原子力研究開発機構 人形峠環境技術センター 総合管理棟
3. 議題
鈹山跡措置の概況
4. 出席委員（委員長代理以外の各委員はオンラインにて出席）
占部委員長代理、飯田委員、緒方委員、片岡委員、小佐古委員、小松委員、佐々木委員、西垣委員
5. 審議概要
上記議題に沿って人形峠環境技術センターが説明を行い、委員から質問、提言を受けた。
 - (1) 鈹委 22-01「鈹山跡措置技術委員会の歩み」
 - ・跡措置技術委員会の経緯、概略についてご理解いただいた。
 - (2) 鈹委 22-02「鈹山跡措置技術委員会の総括」
 - ・跡措置に適用される法規等の値については過去からの経緯を含めて整理すると共に、その根拠を把握して今後の議論の参考とするよう要望を頂いた。
 - ・基本計画に沿って第 2 フェーズ、第 3 フェーズの課題に取り組んできたが、併せて社会科学的な要素の視点も必要であり、排水基準値が低ければ良いという考えではなく、妥当な基準値を設定する努力をするよう提言を頂いた。
 - ・鈹業廃棄物の埋立場の建設に関する説明は懇話会等の場で丁寧に説明し、地域の方々の理解形成に努めるよう提言を頂いた。
 - (3) 鈹委 22-03「新坑水処理システム調査・設計」
 - ・坑水処理の脱水ケーキの固化について、セメントの種類、アルミネート塩、消石灰の配合割合など実験の条件範囲を広げて情報を広く取り入れて検討するよう提言を頂いた。
 - ・固化体からの溶出試験について、数値上の系統的な違いが表れていないところがあるため、原因を検討するよう要望を頂いた。

- ・坑水処理で発生する澱物はすべて廃棄物になり、その処理がさらに必要となる。処理費の試算も含めて社会科学的な検討が必要との提言を頂いた。
- ・坑水処理で環境保全協定値を遵守することはかなり大変なことであり、技術開発で頑張るといふこともいいが、協定値については、地域住民、他地域住民、規制当局などいろいろな人を含めて議論をすることが非常に大事であるとの提言を頂いた。

(4) 鉱委 22-04 「鉱山閉山措置に向けての広域バックグラウンド分析評価及び安全評価シナリオ解析」

- ・バックグラウンドをどのようにして設定するかという問題はとてもデリケートな問題であるので、慎重に取り組んでほしいとの提言を頂いた。
- ・水生生物の調査が行われていて感心したが、水生昆虫だけでなく標準化された方法論を用いて評価をしたらよいとの提言を頂いた。
- ・環境測定データの傾向について、地震・降雨等のイベントと併せて検討するよう提言を頂いた。
- ・バックグラウンドの検討範囲と安全評価の検討範囲のデータの切り分けについて評価検討の計画段階から根拠づけて整理しておくよう提言を頂いた。

(5) 鉱委 22-05 「ウラン鉱石類の海外製錬等措置について」

- ・ウラン鉱石類の最終的な措置方法は具体的に決まっていないが、これからも安全管理・環境管理には十分に留意して跡措置を進めてほしいとの提言を頂いた。

(6) 委員長代理総括

- ・「実施計画(案)」は今後の実施に向けた重要な指針となるものなので、着実に実施してほしい。併せて科学的な根拠に基づいた対処とともに、合理的な判断ができる環境づくりにも取り組んでほしい。

以上